

## 第 72 回紫友まち歩き

番外編

鳴門・徳島のまち歩き

渦の道・大塚美術館・

阿波十郎兵衛屋敷・阿波踊り会館

台風 10 号の影響も逃れて、四国徳島県の鳴門と徳島のまち歩き。目玉は、鳴門の渦の道、大塚美術館の館内ほぼ 1 日鑑賞歩き、阿波十郎兵衛屋敷での阿波人形浄瑠璃の見学、阿波踊り会館での阿波踊り体験チャレンジなどでした。熱中症対策をしっかりとしてスタートしました。毎日の夕方からの懇親で飲みつかれた人も数名。

**日時： 2016 年 9 月 1 日(木) - 3 日(土)**

集合時間：9/1 8 時 40 分

集合場所：羽田空港 JAL 時計塔 3 番

参加者：13 名

案内人：014 笠井

懇親会：鳴門（さかなばたけ）、徳島（銀乃介）、空港（阿波膳 ODORI）

懇親会参加者：13 名

**<まち歩き>：**

### ■まち歩き行程

9/1:羽田空港集合→徳島空港着→徳島バスで鳴門公園(12:14 頃)→渦の道 展望室→架橋記念館エディ→ビジネスホテル北洋チェックイン→懇親会鳴門駅前「さかなばたけ」

9/2:→「すべり(迂)岩」バス停から大塚国際美術館前へ→美術館鑑賞→美術館から鳴門駅経由 JR で徳島駅へ→東急 REI ホテルチェックイン→懇親会「銀乃介」

9/3: 市営バスで阿波十郎兵衛屋敷へ→阿波十郎兵衛屋敷見学→市内に戻り、阿波おどり会館見学と体験→徳島城博物館→徳島駅から徳島空港へ→空港内「阿波膳 ODORI」にて夕食、懇親会→20:20 頃徳島空港から羽田空港へ(21:30 頃着)→解散

**<スタート>**

写真を見ながら楽しんでください。

**9 月 1 日(木曜)**

① 羽田空港集合：

JAL 搭乗フロアの時計の塔 3 番集合。なぜか北海道方面の場所。戸惑いながらもどうにか全員集合。笠井さんが各自にイーチケットを手渡し、機上の人になる。



② 徳島空港着：

徳島阿波おどり空港前には阿波踊りの銅像がある。しばらくバス出発の時間を待つ。徳島バスで鳴門公園に 12:14 頃につく。



③ 渦の道 展望室：

バス停前のお店に荷物を預ける人もいる。



坂道を上り、15分ほど歩くと、大鳴門橋遊歩道「渦の道」の入り口に着く。



海流の流れで渦ができ、しばし白い波が渦巻き、消えていくのを探して眺める。



見ごろ時間が 12:10 なので 30分ほどたっているが期待していく。



チケットを購入して渦上45mの展望室まで太平洋と瀬戸内海との鳴門海峡の流れを見ながら450mほど進む。



観潮船が見学しながら流れに任せているのも見えていて面白い。



ると小笠原氏居城の撫養城（むやじょう）だった。



#### ④ 架橋記念館エディ :

途中にある円形の架橋記念館エディ見学をする。古い建物、古い展示で面白くなかったようだ。屋上からの大鳴門橋の遠望がよかったくらい。



バス停そばのお店に戻り、竹ちくわとビール、アイスクリームなどをしばし楽しむ。阿波金時芋、阿波わかめやすだち(酒)が名産のようだ。



バスで鳴門駅そばのホテルに向かう。

#### ⑤ ビジネスホテル北洋チェックイン :

「すべり（辻）岩」バス停で降りる。5 時ちょっと前にロビー集合として解散。一部の人たちは 12 月の宮内庁仙洞御所見学のインターネット申し込みを必死に行く。

#### ⑥ 懇親会鳴門駅前「さかなばたけ」:

予約時間より 1 時間ほど前に行く。途中、左側の山の上にお城らしきものが見える。後で調べ

ビール瓶を 10 本頼み、懇親会は開始。名前ほど魚三昧ではなかったのが残念。付け出しは阿波金時芋だった。



のんびりと懇親は進んだ。



帰りに鳴門駅前広場にあるマスコットキャラクターを写真に撮る。



一部の人達はそばのレストランに行き、さらに懇親を深める。



9月2日(金曜)

### ⑦ 「すべり(三)岩」バス停から大塚国際美術館前へ：

小さなバスなので、13人が乗り込むと満席になってしまった。



大塚美術館前に着いたが、30分ほど早い。しばらく待合室で9:30の会場を待つ。前売り券は前日ホテルで購入済。



美術館前の大塚製薬の施設は立派だ。

### ⑧ 美術館鑑賞：

入口は山の下にあり地下5階なので、エスカレーターで地下3階に上っていく。



美術館は山の景観を崩さないように造られている(施工竹中工務店)。

B3で荷物をロッカーに預け鑑賞開始。

鑑賞ルートが、地下3F~地上2Fまで約4kmに渡って展示されているので、美術館内のまち歩きだ。先ずシステーナ礼拝堂天井と壁画から鑑賞を始める。



システィーナ・ホールは2004年5月、衆議院議員の後藤田正純と水野真紀の結婚披露宴が行われたことでも有名となっており、2010年2月にも夫人が徳島出身である横綱白鵬の結婚披露宴も行われている他、2009年からは将棋の王将戦・松竹の歌舞伎なども開催されていると解説。曲面も陶板で作っているのを映像で教えてもらう。

絵画展示は、古代、中世、ルネサンス、バロック、近代、現代の系統展示。

B3にはエル・グリコ、フェルメール、ジョットなどの作品が展示されていた。(絵画については念のためここには添付しません。)

B2に上がるとフラ・アンジェリコほかの画家の受胎告知、ボッティチェリのヴィーナスの誕生、ダ・ヴィンチの最後の晩餐(修復前と修復後)、モナリザ、レンブラントの夜警、リューベンスのキリスト昇架、モネの睡蓮など、なじみのある作品が展示されている。

お昼の時間になってきたので館内のレストランで昼食とした。海鮮丼のたれが薄いので、醤油がないのかと聞くとありませんと言って、追加のたれを持ってきた。醤油は鳴門では利用されていないのかと話し合う。



後半の鑑賞開始。

2階には、レンブラントの自画像、1階には、ピカソのゲルニカ、B1には、ゴヤの着衣のマハと裸のマハ、ムンク、クリムト、ゴッホ、ルノワール、ミレー、ドラクロワなどがある。

美術陶板の作り方のビデオを見る。美術陶板は2000年以上持つという。文化財記録保存活動として美術品を残していこうということは理解できた。足も疲れてきているので、少し早めに徳島駅に移動することになった。

最後はシスティーナ礼拝堂で集合写真を撮る。





#### <説明>

大塚製菓グループの創業 75 周年事業として 1998 年（平成 10 年）に開設された。

鳴門海峡の砂の活用として、コンクリートのほかにタイルが検討され、チャレンジの結果大きなタイルが作成できるようになった。

石油ショック時に陶板に絵を描いて美術品への適用の方に移行することが決まり、色の道(2 万点近い色の分解)に対する日々研究の苦労と努力を続けてきた。

沈没した船の荷の陶磁器類は昔のままの色と姿で残っていた事実もある。さらに、本物の絵は次第に変化するから、実物の色と陶板名画の色とでは今から 50 年、100 年経っていくと、色や姿がおのずと違ってくると思われる。どうしても真実の姿を永遠に伝えたい、後世への遺産として保存していきたい、ということで陶板名画美術館設立に至ったと書かれている。

美術館のブランドシンボルには、西洋名画の中でも高価な色として珍重されてきた「ラピスラズリーのブルー」が使用されている。

#### ⑨ 美術館から鳴門駅経由 JR で徳島駅へ：

バスが順調に走ってくれたので、一つ前の列車に乗れた。

鳴門駅は終点で、単線で徳島に向かう。



車窓からレンコン畑の広がりが見られた。



#### ⑩ 東急REIホテルチェックイン：

徳島駅前には立派なそごう SOGO の建物がある（写真は翌日の朝のもの）。その裏手のホテルにチェックインする。



⑪ 懇親会「銀乃介」:

新町川は干潮で今にもあふれそう。川沿いに懇親会場まで歩いていく。



阿波踊り関係者が一緒に飲み、語り・踊り始める。



しばしの懇親でホテルに戻る。ホテルの部屋で最後?の懇親会が始まる。本当にお疲れさんでした。

9月3日(土曜)

⑫ 市営バスで阿波十郎兵衛屋敷:

駅前を見学。郵便ポストの上の阿波踊り像。



駅前のバス停からバスに乗るが、いかに安くいけるかと真剣に検討してくれる人がいた。左回りというバスに乗り 30分ほど徳島郊外の細い道を走っていく。

吉野川の流れはゆったりとしている。



⑬ 阿波十郎兵衛屋敷見学:



入場するとすぐに説明会を開始してくれた。吉野川と藍の話もしてくれた。

11時から阿波人形浄瑠璃の実演もある。  
説明の後は、人形の操りの仕掛けについて興味  
深く説明してくれた。差金という言葉の意味も、  
左手の操作にあるという。



鶴亀の庭を望む母屋では結婚前の写真前撮りをして  
いた。



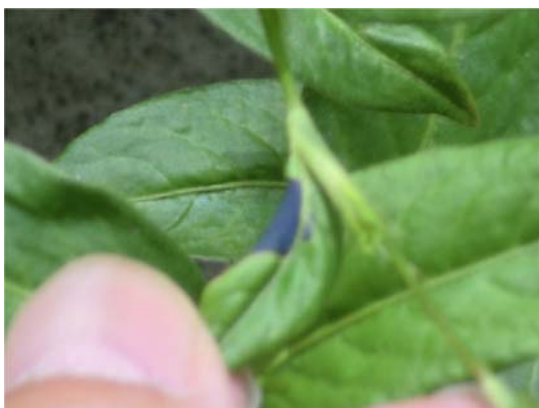
11時から30分ほどの阿波人形浄瑠璃を見学する。



藍の鉢植えもあり、説明員が葉の一部が変色し  
ているのを見せて、これが藍の色になるという。



太夫の語り、太棹三味線と1人形当たり3人遣  
いの黒子による「傾城阿波の鳴門」の「巡礼歌  
の段」での娘お鶴と母親お弓の再会と別れの場  
を鑑賞。目や手の動きが素晴らしい。







黒子も劇に熱中してくると目障りでなくなってくる。

劇が終わると記念写真を撮ってくださいというので、10名の写真を撮ってもらう。



帰りに入口の藍染暖簾や外観を写真に撮る。



⑭ 市内に戻り、阿波おどり会館見学と体験：  
徳島駅前のレストランで昼食。



阿波踊り会館で阿波踊りの実演見学をする。終わりには参加型の体験もあり、一部の人は阿波踊りにチャレンジ。腕を上げたままにしているのは、疲れるという。





「踊る阿呆に見る阿呆、同じ阿呆なら踊らにやソソソソ」



カラフルな模様を持つ徳島藩御召鯨船千山丸を見学。阿波海賊がいたようだ。



上田宗個築庭の旧徳島城表御殿庭園も立派だ。



#### ⑮ 徳島城博物館：



「汽車の道」と呼ばれる跨線橋を渡って、駅の反対側にある蜂須賀家居城の徳島城跡にある博物館を見学。

ボランティアの説明で 10.5m の阿波の青石で作られた石橋を写真に撮る。



天守閣があったかどうか説明員から聞く。一般的な天守閣はなかったようだ

#### ⑩ 徳島駅から徳島空港へ：

5時15分の徳島空港行きのバスで空港に向かう。バスは先ほど訪問して見学できなかった徳島城跡の鷲の門や城壁の前を通過していく。



#### ⑪ 空港内「阿波膳ODORI」にて夕食、懇親会：

懇親会の時間確保を案内人は予定してくれていたようで3つのテーブルに分かれて最後の懇親を始める。メに気になっていた徳島のラーメンのハーフを食べる。



買い物を済ませ、少し遅れの飛行機に乗り込む。

#### ⑫ 20：20頃徳島空港から羽田空港へ(21：30頃着)

お疲れさまでした。それぞれの目的地に向かって別れました。

以上